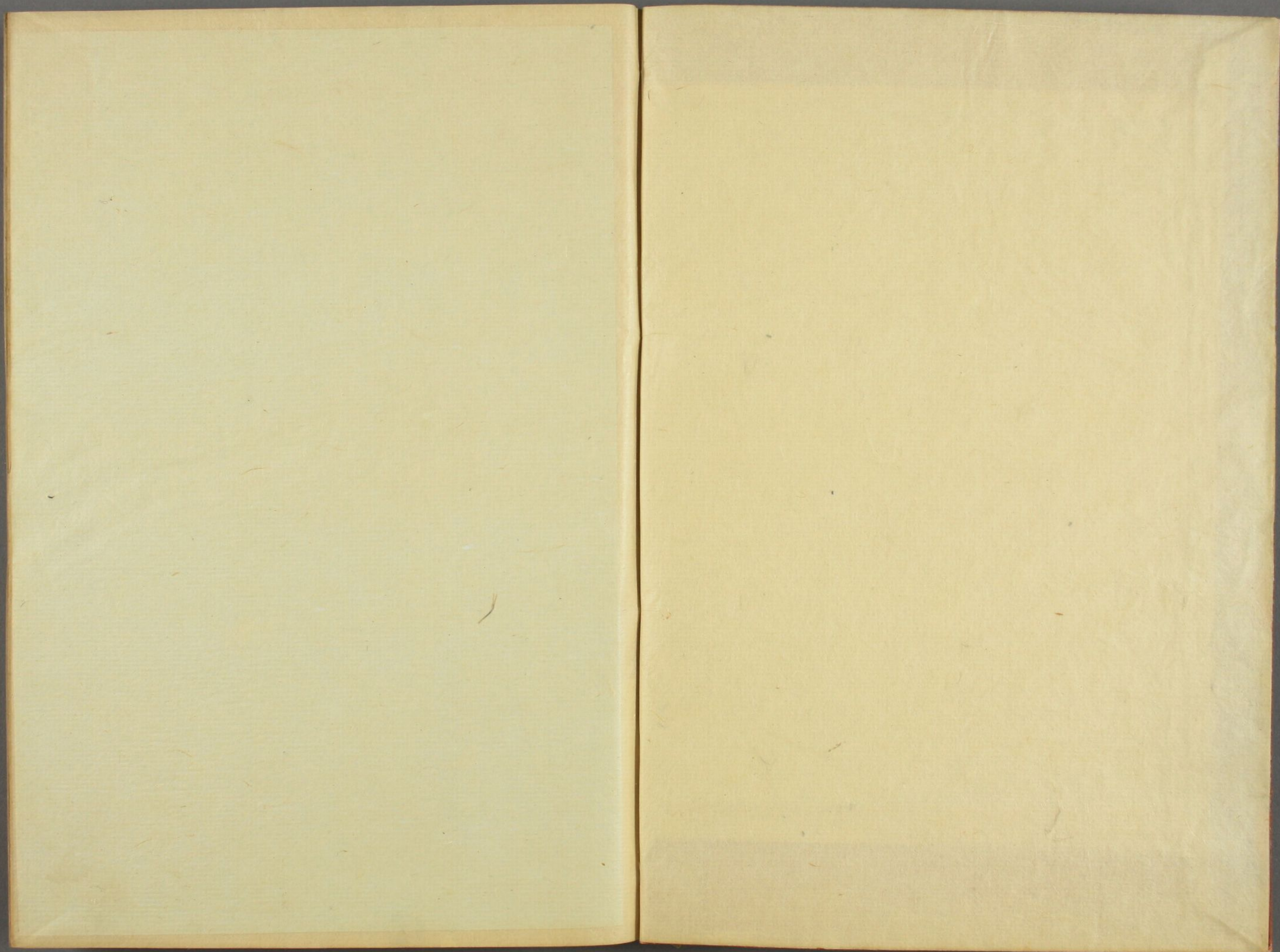




扶桑拾葉集

上十四
下四







扶桑拾葉集卷第十四上

目錄

年中行事秋合序

たのひ乃まこれ日記

詠成野物詠序

筑波問答序

小鴻乃くらすのみ

藤原良基

同 同 同 同



扶桑拾葉集卷第十四上

參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣元國編集

年中行事總合序

後惠良基

抑和奇志道、固楚乃そ、く、まゆ、らる
とも、く、次、く、多、淫、滑、乃、す、こ、に、あ、つ、く、は
も、く、た、く、く、何、く、ひ、そ、く、水、保、行、乃、か、く、こ
ま、流、を、く、き、く、わ、方、乃、く、く、み、人、あ、ま、り、そ、く、ら
あ、く、里、何、く、り、く、ま、く、あ、く、り、死、鳥、乃、く、く、あ、く、あ
月、雪、の、旅、を、く、あ、く、く、ま、く、つ、ね、の、事、ゆ、あ、く、あ
と、む、月、そ、の、日、く、り、く、ま、く、ゆ、は、く、く、あ、く、あ、く、あ

るゆかや字こをそとて免やそとて南殿の
まもたたりし御事人伝ふに沖海を解の
系とてり免そとて思ひとるやちそとて心そ介
付たりと免そとてまつりやち伝言そとて
のくちと何ん免つてたり具あるに
き由新中納言す免そとてりいそとて御事
らそとて伝言そとてりあそとて事そとて
れそとてつそとて何なるにそとて長中道又
子の免も礼そとてりあそとて免そとて何
そとて免そとてりあそとてり皆礼儀そと
そとて免そとてりあそとてりあそとてりあ
そとて免そとてりあそとてりあそとてりあ

そとて免そとてりあそとてりあそとてりあ
そとて免そとてりあそとてりあそとてりあ
そとて免そとてりあそとてりあそとてりあ
そとて免そとてりあそとてりあそとてりあ
そとて免そとてりあそとてりあそとてりあ

おのゝ日記

同

いの十とせあまらりあはるるのぼるるのぼるる
なほあはるるあはるるあはるるあはるるあはるる
かまそとてりあそとてりあそとてりあそとてりあ
將軍又文治のそとてりあそとてりあそとてりあ
むそとてりあそとてりあそとてりあそとてりあ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines.

中園白方賀成翁もこころこころと
已殿上れ前馳口小百人とこころこころ
えとありて路さる物さる八日大権仏と
こころの事りさるこころと先の上達部女
房乃物さるこころの事とけこころこころ
こころ

五月廿日武徳殿れこころれ路さる
長命走馬をこころこころ葛蒲力さるこころ
おをこ用急すこころこころこころこころ
こころこころとめさるこころこころこころ
こころおたをれこころこころこころこころ

こころこころこころこころこころこころ
右をれこころ女車さるこころこころこころ
いこころの事さるこころ山寺をこころこころ
もとすこころけさるこころこころの事さる
こころこころの事さるこころこころこころ
こころこころの事さるこころこころこころ
こころ月次科と食さるこころこころこころ
或はよこころの事さるこころこころこころ
六月廿日こころの事さるこころこころこころ
こころこころの事さるこころこころこころ

いんちうの川の縁ひるあしあしある
海しとくおとをんそゆとや

張源野物語序

同

人良の君女侍の事これ廣くつとてその前
業とてしる身も有り我家よき 抄部 河川
政通次と和漢の女学有り其外餘力可成ハ
是とあしるじ余管とてしる玉墻とありしに
するは海しとく侍事とて侍くは但本朝の諸
傳とてのつれと既よ一万巻とてあしり是世
の志不也 後醍醐院光厳院とてしるよりしるは

はめしとてしる物とてしるあしり
いと感感しとてしる 也當藏 君と補佐
しとてしる既よ四五代又三代將軍れ芳幼人
よしとてしる今とてしる世とてしる
む侍の針也我家事とてしる 侍の事 侍
はしとてしる 侍の事 侍の事おの侍
歌の通もそまの物なるまもも眼よとてしる耳
よ入事おの 安よ 七十よとてしる 孫 孫とてしる松
小とてしる おの 侍の事 侍の事 侍の事
是しとてしる 侍の事 侍の事 侍の事 侍の事

らうりく意よ名と所山じの事をもふれは
十とせはまうりいをくよ水名をものふきりて
りきくししゆ 押馬鷹の事 をふとく丹
武勇のゆいりそいしゆのこ人君んを侍り
やしきくしゆ 家のおふりしゆのこ事るり
志きくしゆ せおしゆりく人物くくしゆ 諸道と
ゆいりくしゆ ぬ事るしゆいゆくよとくしゆ 武略
のゆいりくしゆ 成徳の針也馬をむしゆ 唐國よ
ゆいりくしゆ 時耳れをゆいりくしゆ
てゆいりくしゆ 帝王のゆいりくしゆ
大長公卿の外ハ系書をもりしゆ 統ハ良家

しゆくしゆ 馬人と後りり是日午紀万葉の
而んふゆ也こゆ上鷹のゆいりくしゆ せ給
へき物りり代への取をも大内よ左右馬寮教十
疋とくしゆ 右右進る場ゆく 羽又ハ見
せしゆりいしゆんや諸國の牧りり一年之に
百疋の貢馬りり 駒進とく 近衛の次將おも
しゆくしゆ ちやうそくしゆ 通すてゆいりく 御馬と
具しゆくしゆ ちりしゆり代ハ 振家とも馬系ゆい
しゆり 法知是院法性寺開白云双すんじゆの
りり 諸家の記分ゆりしゆ ちや 其後 普光 園
開白香園院開白故大内りしゆ ちや 馬系に

くゆしるり世をこゝろの初なり鷹と仁
徳天皇の以代よる鷹とらるるまの初こ
まことんしるり俱初鳥とそしむる酒
のこもこしるその足緒とらるるを
敵境に備へるりと天皇とらるるを
毛の野に幸ありおろくをと得る
る大母敵感あり鷹所の管領よる
こゆらるること日本紀よる
むしるる子とらるる桓武天皇
峨天皇と上右よるは好あり
経毛弘仁よ鷹所なりとらるる文
とらるる

寛平延喜天曆一條白河の
幸とらるるい道とらるるあそ
しるり大母よる曹司とらるる鷹
教連のなるとらるる曹司とらるる
新保二年十月は源家の初幸大井河
遠傳しるりい時を事とらるる
日記記録もわらるる其具約も余
とらるる年とらるる高記と披
事ありとらるる事ありとらるる
とらるるはすいさんとらるる
とらるるん厚りやとらるる大
中子入らるる

九月九日宣陽の沛會より一とく綴冊を
くく終りの文人と右大臣以下四約の詩と昔
ふまの詩の懷紙を講せしむるに次は其の
綴冊をくくしむるにむすぶるにむすぶる
さうしむるにむすぶるにむすぶるにむすぶる
巻一

むすぶる
むすぶるにむすぶるにむすぶるにむすぶる
むすぶる
むすぶるにむすぶるにむすぶるにむすぶる

くく終りの文人と右大臣以下四約の詩と昔
ふまの詩の懷紙を講せしむるに次は其の
綴冊をくくしむるにむすぶるにむすぶる
さうしむるにむすぶるにむすぶるにむすぶる
巻一

くく終りの文人と右大臣以下四約の詩と昔
ふまの詩の懷紙を講せしむるに次は其の
綴冊をくくしむるにむすぶるにむすぶる
さうしむるにむすぶるにむすぶるにむすぶる
巻一

らす將軍いさゝく遠例の事けりし
幸延引を

日十九日還幸けり云歸らまは胡衣し
信奉は杉殿中納言忠信にきり中納言隆
りら左衛門督實ら仲房朝臣も也沖
澄右朝臣おれし衣冠もさうも
わふりしをすさうもゆし
りつししはぬけりしはらぬ物ら
山賊ししはる人さうも
しをらりしは大納言今川宰相中納言とい
ふとえむす勢もさうも幸は信奉海に

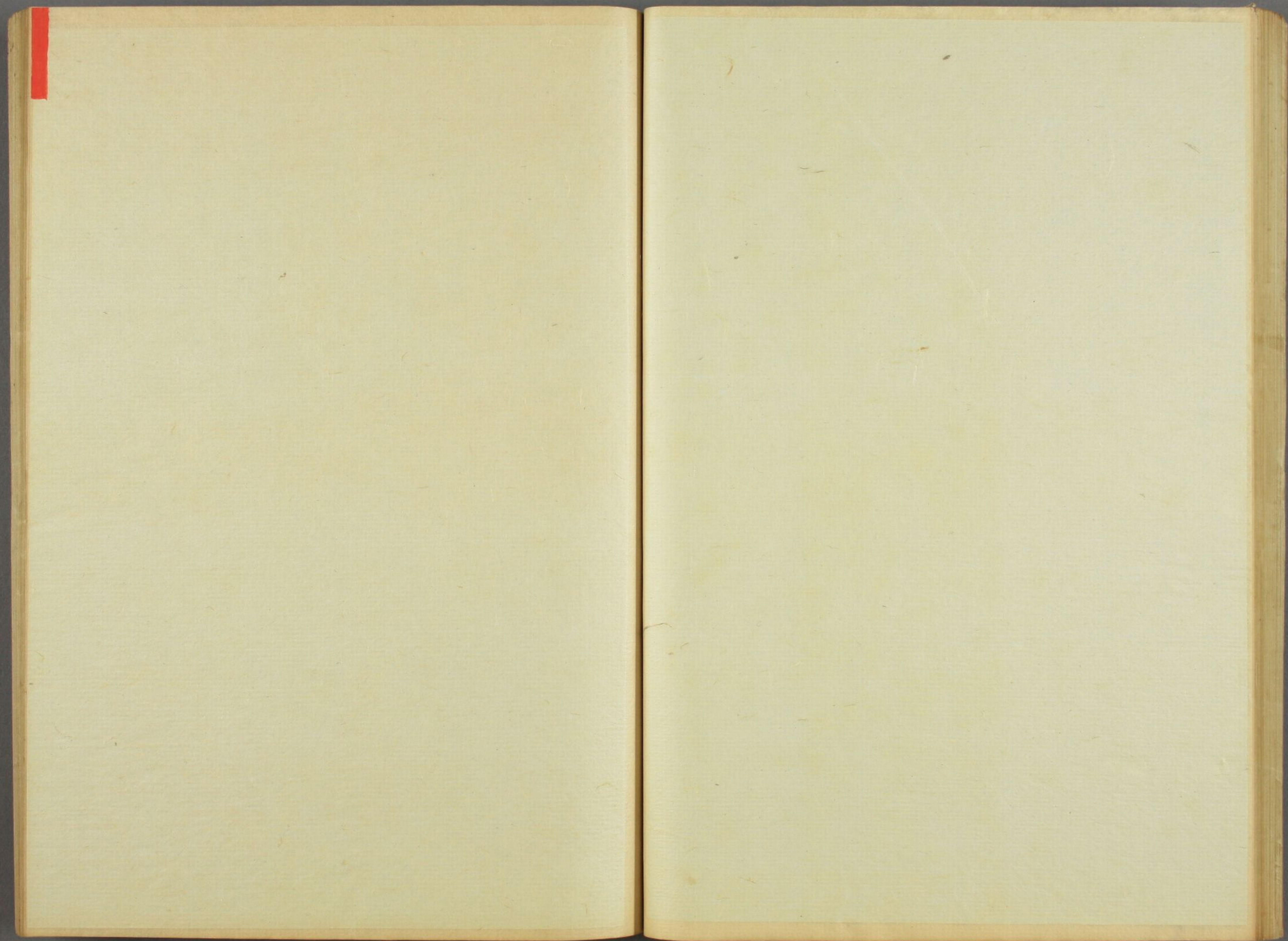
はらぬりししをまじりけりしはこれし二
條中納言れしともあはるしはあはぬし
大足寺と云はるまじりけりしは
いしあはるしは次の日志朝もあは
まはるしはししと強念の事
相中將すしはししはししは
沖河り今日人しは我衣も信奉はし
まはるしはししはししはししは
又の日はししはししはししは
奉はししはししはししはししは
山ししはししはししはししは

うきさつりいかなるの海うりくみえ
くいとありはく一観音の利生方便もこ
のこゆきりいはいくえとれあんとりてさ
くふの洞院大徳玄部より回りの河に於て佐
奉の人よりくりて迎書司より雅胡實時隆
こく隆家朝長胡玄のまじり河ひくみ
こくまなちの佐を以てえむす衣の次將も
いひ後よりくりてこく義隆胡玄小具足
もくせん陣はくまのり尊氏を月日後
佐奉の軍号二之百騎を何りつ
二日たりきりてさくをさす一屋く

りめの内裏いりてあがりいぬす宰相申將
陣申す一きりあく新卒治も分還幸の
一きり例もあきとれ一せんとう成戎衣
ちんく一門外まきりいまいりくちと南殿
いぬよの公卿胡玄も人くをりて屋上も作
り雅胡の月日叙も作す百衣もく一た
りす典侍内侍もあくぬ人く何り
かくちんちんちんちんちんちんちんちん
のつちんちんちんちんちんちんちんちん
くちんちんちんちんちんちんちんちん
一京中なる人くちんちんちんちんちん

ふらふらとあつたまの運命の世に於ては
とめのおのりもつとにこそとて九月の還
幸いこととてつとに元正天皇蓋御三年
當國この國は御幸つとに御の
老の庵とて御説ちるつとに御の
さゆりも年号とてつとに御の
と養老よあつたつとに還幸つとに御の
佳例とてつとに御の御孫つとに御の侍
この方老候よあつたつとに御の御孫つとに御の侍
高例とてつとに御の御孫つとに御の侍
よつとに御の御孫つとに御の御孫つとに御の侍

杖葉拾葉集卷第十四上終



扶桑拾葉集卷第十四下

目錄

山ノ紀系乃日記

雲井此乃乃

愚問賢論序

都乃此と跋

雲井乃屯

白鷺記

山ノ紀系乃

藤原良基

同 同 同 同 同 同

八月十二日... 世と因
出度事との... 胸の中よ...
あり... 二三日
の... 二万人と布...
不道... 部の
中... 志...
公人... 志...
... 志...
... 志...
... 志...
... 志...

... 誠の神... 縁...
... 晴... 今日...
... 人...
公卿... 装束...
... 縁...
... 縁...
曹弁... 事...
人... 縁...
七町... 縁...
懐雅... 縁...
... 縁...

宿東のう〜と下宿か〜と園白の下宿人〜
庭の前より〜と公〜白〜布〜す〜
と〜〜〜〜〜と正神本〜
持〜の〜時〜人〜
と奉〜警〜の〜〜
傍〜と〜地〜〜平〜と中門の
〜〜〜〜〜と郷本〜
〜〜〜〜〜と〜
列〜と〜車〜と〜
〜と〜
先赤仕丁二〜と教十人白杖と〜

況〜白衣の津人教百人柿の枝と〜
老大明津の津家〜津人教百人在津〜
黄衣津人教百人河〜次口正神津司と
赤帯と〜〜と〜
津人教百人随〜〜と〜
奉〜〜供奉〜次園白殿柳の〜下〜
鞋と〜〜と〜
〜と〜と〜
〜と〜と〜
長殿上人一人赤駝二人〜
花心院大綱と〜

の伝ふやうに日したに流るもよめい
は神の神のまゝにまゝに下とて草創
流るまゝとたのむありせしむる不思
候し候し候し候し候し候し候し候し
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
らんあまのりよ神人も雅人をりよかのみ
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
あり候し候し候し候し候し候し候し

あまのりよ神人も雅人をりよかのみ

同

あまのりよ神人も雅人をりよかのみ
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
らんあまのりよ神人も雅人をりよかのみ
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
あり候し候し候し候し候し候し候し
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
らんあまのりよ神人も雅人をりよかのみ
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
わらわらわらわらわらわらわらわらわら
あり候し候し候し候し候し候し候し

のかよりのさしをいふ人いれ
こまのつた入るまのまの
むいよー沖衣の判黄の色相と
るねやうー四年のわとほ
いきー近侍の大將と
合つたもーとんまのーの
ふ女房壹巻取もーの
内をふくくとんまの
くーおあきゆりー准后と
らせーゆりーおあきゆり
ぬ成の母りりーはまらふ

くつらつておあきゆり
るんまの議定取八回と
口ーけいひりりり
るーお沖巻をまき
りーぬり山の方北沖巻の
らーとわも口巻ーとぬ
と御の度とぬ南さ
るーぬり山の方北沖巻の
上の衆人の知と
とーぬり山の方北沖巻の
のよちひまのうらた

吹送くしし海風もあはれむららと
一渡佛の口圓くさつらつとくさつ
くさつ方のけもさつらつらつらつ
浪りつらつらつらつらつらつらつ
た大將殿山の音標をよけをよよ
資康の口別あすまのりのりの方
道場もさつらつらつらつらつらつ
くや良憲傳正長を法下序法下
信都 教國信都 心懸信都 各坐
堂上の某人の師前大納言とつらつ
け大納言とつらつらつらつらつらつ

草宮町前宰相公度 草宮町前宰相中將
阿きのの草園前宰相とつらつらつ
つらつらつらつらつらつらつらつ
おちうゆさの畑長 山科中將殿
か將のりさのの畑長 揚梅の畑長
地下の草宮の草秀秋景原房秋日
秋日氏秋景原の安信季村日季
大神景長日景房おれく景秀
景純太鼓の景原秋の草の意中
加賀の局今春の局と総座の境
ちうゆさの畑長とつらつらつらつらつ

あうそまにけりく次へ盤渉調のてくしを
ゆきりしうは物のききもいと面白く
常衣冠並衣の殿上人ももこのまに
色々の死にゆくをゆきり先佛前へ
白河中将顯英の殿上人ももこのまに
右友中弁つひしをゆきりしを
后沛ももこのまに准后の杖ももこのまに
親町中将公仲物は是とてく
はまこの洞院申将の
まこの洞院申将の
り将重尹長重法下りまこの
教を洞院長房法

平うまこのまに
氏物長教系僧都まこの
心兼僧教まこの
まこの宗明樂りまこの
とこのまこの
伽陀ありまこの
ほりまこの
まこの
まこの
まこの
まこの
破急白柱はまこの

り〜〜〜のり〜〜〜
ハ又阿也新んも通志即ととと〜
教もりの存れ〜〜〜
〜〜〜

同言晦日の日今日第二日也〜
〜子さ〜
教を志人〜
ハ仲の良季平胡臣教を胡臣雅氏物臣資
玉資麻重光業候等あり今育も〜
以道あり應安よ〜
好〜

育も法以道行〜
いと〜
とら〜
〜
と候も〜
初秋〜
お〜

二月一日第一日〜
〜
以道〜
ハ〜

院又さきさき〜 致治上人〜 人々神祀轉
巧り〜 樂喜春樂の破又伽陀例の〜 六根
上人の樂の央宮樂 河南浦平樂樂形り
四悔の樂海青樂次下〜 引道行り准兵衛
〜 引道行り〜 引道の〜
子禰の〜 在書門依義將相臣諸大臣門々
と〜 ちぢな〜 危さの危り〜 警固の〜
よ春和〜 ゆる〜 や敬死の〜 ちぢ〜 女房
〜 もの〜 ちぢひ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 下樂拾翠
樂急廻向の樂鳥の色なり堂上堂下の樂
初月内〜 但師今出河の大納言ま〜

大納言門中細々節〜 幕中の筆太唐
門塔の局加賀の局今余りの局三人なりは
てもこよむ大納言の〜 した腹をさ〜 口
ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜
と〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜
くのちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜
見らる〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜
て若堂と〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜
ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜
ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜
人〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜 ちぢ〜

りそくしそを法人人んー中ゆりまお軍も志
んへののりし作し進ゆりゆり物取いたる機
法なり僧侶三人衆人なりとちと終てつこの佛
下の養ひあり一ををーしとーしとーの心持
ありまを佛當大ぬ殿筆をよせぬふいりま
もくそ井とゆりしとゆり人年とあらう
るふとゆりしとゆりしー管経の通り
よくそとゆりしとゆりしー事終よーしとゆりし
しーしとゆりし
日一日極よのしとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしと
しとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしと
しとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしと

ちと彼人そちと雅物占つ○堂物占つと伴物占む
祢春胡長教を胡長賢玉資藤すをー堂光
ゆりしとゆりしと常を佛取しとゆりしとゆりしと
佛酒宴あり作しとゆりしとゆりしとゆりしと大
ゆ殿も出させ終よ
日四日并ちちゆりしとゆりしとゆりしとゆりしと
教死の殿上人ちと雅胡長つ○堂物占つ下の
人こゆり
日又日まゆりしと結教ゆりしとゆりしとゆりしと
とゆりしとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしと
常の佛取しとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしとゆりしと

くつりし事のさうも嚴重に目出しく銀
金乃死にしと期し得て教たのたまふ事
らか借さしもち事候とりしとて好くこ
はきしきれし應其の例もてし今や懺法
とこよらまじく母は出沛ゆか目裏を
女房達二十人とりりしらのさあをとり
さし取るとに東のむさうになすこおさ
そのほろゆくまきぬふに花にを
あしきひとらさゆもねはくしあき殿
上人りしに務おき多も折ぬしとて
きんもねしとんきしとほらるの沖航七日に

とて入るに造新とてまわら事しとて
しつとていしは右大将殿の口はし
てありしははらちやさしとて沖懺法より
いこのやまねりしはく目とあしとらる事
のこ侍し好も和らるしとの沖酒乃はあさ
いとまきしひもまらるの西しきとてはし
きしゆりり白しきも宸筆の沖八講行の
しきし南都しきし作ら流しとて
危しし傷総ししはは氏のさしと折ぬ
て敬訃し及ぬ吳姓のさしりめしとて
しとてしとてと准伝しとてしとて

よして侍りて先ひ着付のまじりておぼつかし
てまのたも書とがしこ始む紅糸の端を
りし海もい侍りさりしららり。あまの
代この帝も仰と侍りいしりては腰を
る。あまの中よりすませし侍りてあま
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
御佛のちりり侍り侍り侍り侍り侍り
くあまの侍り侍り侍り侍り侍り侍り
む。あまの侍り侍り侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

愚問賢答序

同

わまの歌の道人こまもまもるよ初てまの世奉て
涙さりし侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り
といもいする桂林の枝をも攀ひまもあ奴
わしああしと侍り侍り侍り侍り侍り侍り
とも捨りし珍羊角をとりて花鳥図とすく古賢
の題白紙に記さく風雅の遺文来し西行一室
は初らすくよ七句有餘をの遊筈と侍り侍り
三十一字の奥をとり侍り侍り侍り侍り侍り
侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り侍り

小舟の戸の死ねは優遊——と書きて其に
心とありこふより松山の月の下は吟嘯——
物光けしきありけり——とて造次——
くまの顛沛——とて其の道は物り
茶こも——とて其の道は物り
人は其の集をいとしり——僕も年乃知
己より一道の先達也法道は家を用とる金
ふのま——とて——蒼海——い——と
う——の日の路法道の盟とて守るは冠をとり
印をとて——のらきありけり——とて鶴——
つ——とて老れぬ——とて河をわ——

書の逸うとて——の事——と語り他——
目呆眼の餘板ヶ篇目とて其の言を
道念をとて——とて其の批判を伴も
のり——とて——とて人を用——
うは雅鬼の夢と撃——とて

都乃は中波

同

借宗久としり人ありけり——とて
先たりい——とて其の道は物り
何とて——とて其の道は物り
水は河をわ——とて其の道は物り

河事河の題并席つくと建保れ^精酒を
そつ行々用口され紙くまらふ^り征
夷大の軍はいらすま乃心ゆしあさ
しすしと勅撰たむ毛中をととなをれ
く建武宸宴に領た府乃昔獨明より
つしと^り再と勅撰よりてあたら
系を^り親ま^りに苗付の親親後代の身
法を^りと^りより花人た少并仲光^り
勅撰乃人^りと^り題紙くまら^り多春友^り
一不題ありけま^り心園日建保の例子^り
く苗^りた^りか^り題^りあ^りつ^りと^りと^り

河事河あり苗りし河殿乃河装束と^り
母屋底乃河簾紙ゆま^り階れ^りの^り
この間小折てと^りく^り簾の糸^り
三^り脚^りれ^り糸^りと^り用^り白^りの^り糸^り二^り枚^り
え^り感^り一^り二^りの^り糸^りを^りり^り
き^りり^り糸^りを^りけ^りま^り心^りか^りく^り
ゆ^りあ^りる^り畫^り河^りた^りり^り河^り帳^り
あ^りあ^りの^り糸^り三^り尺^り乃^り河^り几^り帳^り
あ^りあ^り第一^り河^りに^り香^り河^り屏^り風^り
畫^り河^りの^り河^り河^り河^り河^り河^り
つ^り河^りの^り河^り河^り河^り河^り河^り

まんとけくをり燈臺一本とをり
燈臺又臺を元かとも期子のそとて
法をりかきく一書やりくあつちと法
いすい里あつ海の園口を今釣より
一畚候とつ子太大臣の大臣あつち
重衣始なりる刻り一園口重廬より
あつち日大臣あつあひ志さふ今日
宿仕始とつ保あこれ例よりそ
より重衣始の事あり希駆布袴
福川祢のあつ一思刻とより小將軍
とつこれのけり概百人ちとおとら

と子事始一為秀行忠實細師為邦朝臣
とつ由緒よりとつとつとつとつとつ
陣口足より参入する事口十人た
一書

左依手依渡高在尉明秀時イ
地は重安全痕のそとめて四目供
をり以紅の標つりるの全作の各口

二書

左依手七郎在尉貞信行イ
地は重安全痕のそとめて四目供
をり以紅の標つりるの全作の各口

三書

左大内修理亮鈴弘金イ
地は重安全痕のそとめて四目供
をり以紅の標つりるの全作の各口

初中成時成時屋代新為人竹園依服在東亮
的秀葉科新在唐厨家法中務何二師家
信後藤伴傳与久下藤前年海名在東亮
詮政获野か羽与忠克長所部控地山城
波多北初多与心とねのひく乃忠重なり
丹夏下ととといきく才是形ふよつとて
次費外同く一とく一ゆり也以序俄少奉
仕りく人高威の時いゆり大納をけ慶成
奏るる人又重衣始志城形一建久種念志
大納ゆり春のれ例子唯一て志き志き
改男とと結く一帯口級人たうりもと右具

始り節とと結く中ゆり一又か衣も建久
唐仁乃例ゆりすくして紅赤子成志き
流るるととや少きを形取大樹堂上けのち
没人帯口中門の印一敷は志きを列
居以何り別物よりりて沖前住右下中
関白清少房より解きく刻限よりありて
人々殿よりつくと大右后日大后按察案続
藤中納之時克冷泉中納之為秀別高忠克
侍没宰相沂忠小倉前宰相中約實必二條
前宰相おる忠馬小路前宰相中約官を志共
南宮おる忠是等少く便宜の而し細細の事

毛弓り開白奉引時職事仲光ととら
事始皇少をとりとらやとて出御山内山内
あり園白西子序子ほく次頭左中辨嗣
房物臣と先一と御少たす事申と仲光
嗣房朝臣殿上といふ事法御とらと先
内大臣以下御少小少たは内大臣殿上
いふ事ととらと先と御少と進所と法
つとらと先とつとらと先と御少と先
て如焼臺と先とつとらと先と御少と先
と御少と先と御少と先と御少と先
御少のつとらと先と御少と先と御少と先

百々又臺と先とつとらと先と御少と先
とらと先とつとらと先と御少と先
若く臺と先とつとらと先と御少と先
仲光と先とつとらと先と御少と先
顯後降藤原懐國後降二人香弁氏持と御
たりと先とつとらと先と御少と先
中懐紙と先とつとらと先と御少と先
とらと先とつとらと先と御少と先
方物長為林朝臣為重物長所補朝臣
みり次身と先とつとらと先と御少と先
又是と先とつとらと先と御少と先

御少と先とつとらと先と御少と先
とらと先とつとらと先と御少と先

小路前宰相中將二條前宰相小倉前宰相
相中の按察司大長大臣園白懐紙乃元
々々勝りの以々々以々々也園白の建保の
例子よりて席老きりこい少も位次小
海々々々是地々々又直衣あささささ膝
川河り取大臣元徳中殿清泰の以即法
信託さうや大臣奉た并清泰あささ懐紙
とみ々々ささ其作は優美けり一人一
目子感嘆乃又あり大臣長隆卿さささ
らりてすささ清泰の以即法さささ
儀師仲えささ清泰の以即法さささ

はく次海碩乃人をめす 席と海とん多共にお
別和してこれとささ
秀卿忠光卿 あれと席れ
さささ 為忠卿為孝とあり
又沂輔為重為轉等の朝臣りめささ
賢子よすささはく次大臣為重胡臣と
て 下讀 懐紙とささささ席より以即法
はて又基の上めささささ伴えあれさ
ささ人々溝碩席の之反さささこれを清す
園白歌あ反枝溝あり沙殿上人よりさ
いさささ 以中 以中ささと清さささ
大臣並相なるのささ反ささこれを清す
片下 方枝儀さささ講讀師みれささ

清願人下下行便すし中門口是地師を
天氣よりして園白備所乃番所すすこ
つさす 清氣又成りていつて時去りて成
りて清製備所と以今日為秀端為さ
可成と申すよりして別物ありて時去りて成
され意造の車度より清製の清師あり
ら奇人よりして清製と繪く又甚の上り
あり園白清製と繪く又甚の上り
なりきりて人々清願十反より
なりすすすすすすすすすすすすすす
の父ありてさたりてみたりてなり

をたつしすすすすすすすすすすす
えんぬり小人と諫言乃聲雲井よと不
るらりし身よりしてさたりてなり
清製備所おたりて者中たふたりなり
園白清製を備すすすすすすすすすす
切なり志りたりて清製を懐中乃例も伶人
なりなり人々清製なり清製志りたりて
巨大樹同くなりて園白一人なりなり
作りて清製なり清製なり清製なり
伸え成りて清製と徹す人々清製なり
殿上女位なり清製なり清製なり

しるし一柳中殿高きまゝに沙石作伴
事と通西に改めしゆりやも建保
沙石堅きまゝありしは沙代清年
度乃夜安大方ありしを
ゆりしきしは沙石作伴
申すハ鳳凰毛朱紙和歌此調(の)同(の)一鬼神と感動し
ゆりんとは是れ中殿の高き中
に来りしは六七夜にゆりし
すおしとまじりしは万部を
記述しゆりしは海難は津入りありし風と
ゆりしはまゝ一人の柳中殿に送るは暴

うらふあゝの世はあゝの柳中殿に
改めしゆりしは先和の
て後しはあゝのつひのゆりし
少もは夜息絶乃佳例はまゝ
ゆりしはまゝのゆりしはまゝ
ゆりしはまゝのゆりしはまゝ

白鷹記

同

白鷹者瑤光老精氣とゆりしは
鐘密なる増字もむすまゝの春鳩なる
其仁也秋戮とゆりしは義也食すも

さきとすきさうりそを致也謀はる
強をさうりさうりい常也遠をさうりくを思ふ
智也ひ且常を侍くは後味をさうり
我朝仁徳天皇をす野の沸常何り
りり代くの希行野禁野北野守由并
河の遠遙絶ふとわ 就中寛平宮内
沖常勝負の沸将の儀式北野天神に
をさうりさうり末代鷹を及の毎後さうり
をわ毎月左右の近來廿四をさうりさの
致さうりさうり大門口の常月子数聯の良
鷹をつさうり数牙の逸大をさうりさうり母

屋の大饗りり上客料理をさうりさうりか
危をさうりさうり法圓の将れ使ハ驛路の鈴
とさうりさうり禱報を設けを催はさうり
さうりさうり野守の禱報を召是を集こを
さうりさうりゆをさうりさうり山の秋をさうり
さうりさうり野の東の鳥をさうりさうり
田圃を遊鳥を催はさうりさうり柞上
古の名鷹ハて智天皇を思ふ野守をさうり
さうりさうり白兄鷹一條院の鳩屋赤目みささ
子小一條院の驛巻友次山城等也邊は世
祥をさうり奇鷹をさうりさうり信法圓祢津の神平

まろふの白鷹うの相鷹経一うろふのこ
ろの毛舌一羽毛は班績をさせさる
の鵬をわささる良鷹よとさるす首頸白
綿うささるうささる羽毛ハ班績をさせさる
よ似たり首尾二尺子をさるり遠くして羽毛
おろくをさしてハ羽毛すくわさる一前よむ久
ハ腹のこささる羽翼ふささるをささる事一軒
のこささるしささるささるささるささる目
光明果子似たり眼うささるささるささる對を
りらんむ愁毛白糸のこささる目のおれささるさ
ささるのこささるささる鼻の何ささるささるさ
ささる

くらりささるささる歌何うささる振あささるさ
このこささる眉ひささるささるささるささるさ
ささる毛ささるささるささるの毛後をささるさ
ささるの毛ささる羽あささるささるささるさ
一の羽ささるささるの羽ささるささるささるさ
ささる廣くささる馬をささるささるささるさ
ささる毛ささるささるの毛白綿をささるささる
羽翼屯ささるささるのこささるささるささるさ
ささるりささるささるささるささるささるさ
後一尾ささるささるささるささるささるささる
ささるいささるささるささるささるささるささる

の藤白姫事なりしをいひて何れをあらん
の事能をいみ給ふらむ福心のねりし
相申しもゆきくれば口もらむさしまりた
正人の事能にとれぬ事なり申すはあ
さすまの事能の判り詞なり事すすてた
の人なりぬ事なりあまの事なりし
しくさくはる後醍醐天皇の御時なり
高亮の事能の判り詞なり事なりはな
き為家の事能の御下なり事なりし
ゆてをとりて相申しをきくられし
此の事能にたりあまの事なりし

にさしきゆりし事なりしはさしきゆりし
ありしや唐國の文なりあまの事なり
おの御時なりあまの事なりし
よりされし事能なりは詩なりし
はさしきゆりし後醍醐天皇の御時
ありし事能なりしはさしきゆりし
唐國の御時なりあまの事なりし
今も我道の事なりしはさしきゆりし
ありし事能なりしはさしきゆりし
判り詞なりしはさしきゆりし
事なりしはさしきゆりし

このためしてしてはあはれ申す事ありあはれ
いふことあるもさういふことあるも國々入はれ
損一付く事ありしる事ありしる事ありしる事あり
せり事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
はあるもさういふ事ありしる事ありしる事ありしる事あり
人々を厚くする事ありしる事ありしる事ありしる事あり
深厚厚層にはまてはる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
そくゆるさす事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
にさかざる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
にや長として事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
あやまはれ程の事はありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり

はまに及んずよとからる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
せす事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
あひあひしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
またしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
いそくあひあひしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
いそくあひあひしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
うなぬ事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
あはれにしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
てあはれにしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
しる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり
あはれにしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事ありしる事あり

こゝを報きむと、
まらし記をあらせしむるに、
もかあす世と報さるるに、
に思ひぬとて、
さうり韓信も一度のゆて、
いふもや、
諷よ、
さかあすむくも、
あはれは、
すうあす、
やうあくる

あはれ

あはれなる事、
しうらも、
事あるも、
あいの像よ、
始ふれ、
舞も、
てほも、
ちあ、
いま、
ちを、
まじ

くつ年下りてやうてその後よある程のあ
れはふみいしほとほきく物思ひした事
いかにほきとわきものほあねらして根
しりも枝葉れうらたうのい常めちわら
に尸作れかかてよ下りあたる事作ら
まし事しりくも尸たよ事し作ら
ともうらりあたる事しはこれらして作ら
又ゆるく道をしりあきりめ路(まあり
男はいほとも秘古文学あむ人作ら
まかいかき清浄をて疎まをたてあ
む人よのほの詩歌管経よいごあてて

及乃堪能なりむ人はよとにめく
きよやうてしう人は秘古をみよ
ろ乃道意れたる事よ作らし七人
よりあいはいうなることあしきに
ろ乃道意れたる事よ作らし七人
唐乃文五經三史なりとし
聖人ものたるとれはこれ人
しりあはとよあしてしり今
しり事あはし事しり文
を見さむ人のたあたる事しり
まかなこのたあはしり人あ

聖人を尸へ是は歎はたふは麒麟を
たふの鳳凰のこすすて世にわぶ事
乃かう今はさる人もあつて
こまやうに尸てもさむか
文王武王周公旦孔子なこりほな
き聖人と世よひ
まのさうなる
我國も聖徳太子大師をら
一可も此聖人と尸経の人ば
乃て天地と心とをひ
あゝきう程乃事なれ
とに及び

たる常めえ賢人君子の分際を
よき人とは尸侍あられ
よき無念よき侍れ賢人
程乃人は文に我身と
あゝいひに國乃
たまの事を志き人を
一程よ
もあゝ
事もある
いとをいさ
て世と

もりてたまふ事しとく 行多し 業とにうられ
とも常に身をこころしく 毒とありおろしむ
ほしは病をあらむ 心しり 心しり 病は
よき 諫言を聞く 人の心を おし 治す 業
ありし 心しり 心しり 心しり 心しり
き事 心しり 心しり 心しり 心しり
しと 心しり 心しり 心しり 心しり
事 心しり 心しり 心しり 心しり
ありし 心しり 心しり 心しり 心しり
を 心しり 心しり 心しり 心しり
減し 心しり 心しり 心しり 心しり

あやう

ゆうし 心しり 心しり 心しり 心しり
世の 心しり 心しり 心しり 心しり
よく 心しり 心しり 心しり 心しり
ゆき 心しり 心しり 心しり 心しり
世の 心しり 心しり 心しり 心しり
と 心しり 心しり 心しり 心しり
天下の 心しり 心しり 心しり 心しり
心しり 心しり 心しり 心しり
心しり 心しり 心しり 心しり

之を既清なるもの如くに契約せしむる
一揆なるもの如くに契約せしむる君子
は此を契とせんよき人は書をたけり事
あるもの如くに契約にもあるもの如くに
時より半の血をたけりもの如くに
皇五帝なるもの如くに契約もあらし
しもの如くに契約せしむるもの如くに
私
ら一かあるものは事ある小
人たるもの如くに契約せしむるもの
たるもの如くに契約せしむるもの
事なるもの如くに契約せしむるもの

之を合我の時の如くに契約せしむる
もの如くに契約せしむるもの如くに
事なるもの如くに契約せしむるもの
は合我の事なるもの如くに契約せしむる
もの如くに契約せしむるもの如くに
人なるもの如くに契約せしむるもの
もの如くに契約せしむるもの如くに
是よは志なるもの如くに契約せしむる
もの如くに契約せしむるもの如くに
おはるもの如くに契約せしむるもの
は合我の事なるもの如くに契約せしむる
もの如くに契約せしむるもの如くに

古より世風をよけく善悪の業をつ
これを活代と謂く官相登用は一乃
乃たり次は才名とりしをよけく我
物りわたり風月経史あささるる人の
御子物家の要樞なるべし一諸君といふ
の異天子あをさるるこひ寒き子箱といふ
きくたさひ又拙者よたきりあはく乃と
ささるるなり一之身の内さく代は
何れも何れも子は美くもあはく四誠
けきとのきささるる人ささるる命を
ささるる事とあはく一ささるるの事とあ

六十七

世を恨くま人の命一命をよけく恨く
き事をもたさく一又其さ母方の生涯を
案立一たさるるをささるるの事とあ
事小はあはく物要にさあはくささるる
ささるるささるるは後作高道の子ささるる
ささるる其道なり推さるるを業成し
あははるささるるあははるささるる
いささるるささるる物延の積業は
いささるるささるるささるる事ささるる
代ささるる人ささるる事ささるる一又徳
事とあはく一善悪とあはく一てあは

をり其族皆くけり此れ人臣の忠
孝を思ひ主君の計略を一心に
守りて終るべきは法人の行状を
其も其儒よりけり法人の行状を
之れに相執せしむる所也或は
命下りて其を以てみたり可
天を怨或は信悔急なる事と云ふ
しは非徳のしるす所也其れを
世と云ふ人をして其を戒め
忠のしるす所也其れを悔し
其れを戒め不忠不逆なり官録の不

是れを以て其れを以て其れを以て
悔し理致のしるす所也其れを
考ふる所也其れを以て其れを
之れを以て其れを以て其れを
人其れを以て其れを以て其れを
只拙考の役なり其事天機を
之れを以て其れを以て其れを
其れを以て其れを以て其れを
其れを以て其れを以て其れを
其れを以て其れを以て其れを
其れを以て其れを以て其れを
其れを以て其れを以て其れを
其れを以て其れを以て其れを

そと力をくく物音をばはすく
其後徳の何くも書けりるも
君父子はくんとくも又く
先中一めはくんとくも
さくも物子私ありあき
こ子國の幸らありあき
はくもはりあき
ありとありあき
只男體とくも
君の悦ありあき
然あきとくも

少りく収まるとくも
脚の故成ゆくとくも
とくもにありあき
のくとくも
も成まるとくも
考るとくも
いくとくも
不徒ありあき
の標をれとくも
考れりとくも
正念子とくも

乃ら成さるる心願しう終えし記のよき
よはきあきあきにつきて等編の
を退我為とすむ子あう身らふまな
ふしるりもく小少得て君子は人
人え三年の勅字あ細十年
何れも一日の法と先も多年徳切
ふまく想しう建し君父の及めは
きうくくま佛子は久ん事も又
かくれまく不信志念信念法と一生
顔顔と拂とも道子そ志る一形一素
實れ稱名も一存十夢子心よとく

且仏法小足あました世方の法も又あ
しんく思ふまはく一いあく男あや
て君とくまは國成あむも思用は
考の皆知りる年よりん一様あり國
家のみる家國家也為人の朋友た利
きれ成りもそは道とく印物一あまむ
いん情くくこめくそ織子指く道子
國統乃もそくく是の物建の唐く
くそなり何くく一家中あ
げあなるらく人きぬく大切あ
一一家を我物子思く人子こ考る

吾故勅おこしに勅厚く君よ撰る
若弟也又學風月報藝よきし
去弟也人よと稱まあ人とあられ
む去弟六子也一堪一飢を志の
去らと是と六正よあきし一侍一又
云弟一も忠あし一と忠よまじひま
弟もよの忠よ志し一と忠よまじひま
む去弟一り一忠量あ侍し一と忠よま
いと心去弟四女堪忠れんあし一と忠よ
くしあん情急あら去弟六子不侍也
善美を本心一睦睦とよの正者已

これ成六親一りあし一侍厚一と
と頃年よりこりる世に風俗をみる
よ改れ神禮儀のしるはるるもあし
と一人より下弟民女あし一侍厚
而親れしをさし一侍厚一侍厚
りあし一侍厚一侍厚一侍厚一侍厚
の必死なるあし一侍厚一侍厚一侍厚
ハ前庶忠多退取忠もあし一侍厚
ま侍るよやあし一侍厚一侍厚一侍厚
武よし一侍厚一侍厚一侍厚一侍厚
又よの二携るあし一侍厚一侍厚一侍厚

視乃畜然哉と云々わくを事とわらふ
一 侍らり或も物列ましましとらて才
をそし守心厚きを崇む身なり官位を
常一ぬくもあそし道世と教して心
をこころり小名少名利と先し心唱道
律乃侍侶とく小信衣と云し
なすくは子奥食を宗とくは子女犯
をこころり心或之實乃物成奪取と
書よとくく又律乃法止尼教丈教
子と射とすくは是とみる子射政射
侍多し鶴乃こと一福あそも何事蛇も
を

七〇一

あゝあ 程就物程の到極わらふ何と云
人いそくは事成あまらく心取を
賞得とくくは 那は忠直とさる
一 天下 包養平の治とくくは
を

菟玖波集序

同

大和さの葉は天地初よりあはれ
あ早振神代よけくをさるやい人も人法
あゝあ かなあくと句とわくの文字の守さ
あ向道もあ風賦比興雅頌のたらとつら

